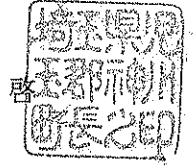




神役発第 670 号
平成19年 5月 1日

国土交通省道路局長 様

神川町長 田 村



中期的な計画についての意見について

このことについて、別紙により意見を提出します。

今後の道路政策や道路の整備・管理について

1 地方の生活道路を重点的に整備を

高速道路や高規格幹線道路の整備については計画的に進められているようですが、地方の生活道路、特に町村の道路整備は、非常に立遅れています。

神川町においても、主要な幹線道路、通学路の歩道については一部を除いて未整備な状態です。歩道用地を確保し、道路整備を進める上で必要な財源が確保できません。国・県の補助事業を希望しても、なかなか採択基準を満たすことができず町単独での整備は困難なため、着手できない現状にあります。

一般的に高速道路や国道などの幹線道路よりも、市町村道をはじめとする生活道路の方が交通事故の発生率は高いといわれています。少子高齢化に本格的に突入した今、将来の社会経済を担う大切な子ども達を交通事故から守るとともに、増えていく高齢者の安全を確保するためにも歩行者が安心して歩くことができる歩道の整備は急務の課題です。

道路特定財源により、地方の生活道路の整備に重点的に取り組むよう強く要望するものです。

2 国道462号線バイパス整備及び神流川新橋架橋を

埼玉県北部の本庄・児玉地域は、群馬県に接し、本県の北の玄関口として広域交通の要衝となっています。平成5年には、児玉地域が地方拠点都市地域に指定され、科学技術革新を先導する国際的なまちづくり、魅力と活力のある都市基盤の整った地域づくり、豊かな文化、自然を生かした定住環境の整った地域づくりなどが圏域内でそれぞれ進められています。

このような状況下、伊勢崎市方面へは坂東大橋の架橋及び取付道路の整備により利便性が高まり、上越新幹線本庄早稲田駅や本庄新都心地区へのアクセスは格段に向上しました。

一方、児玉地域から群馬県藤岡市方面、上信越道の吉井インターチェンジ方面へは、国道254号の藤武橋や、国道462号神流橋に大きく迂回しなければならず、慢性的な渋滞箇所となっている国道254号線藤武橋の渋滞解消は緊急な課題となっています。

国道462号線のバイパスを整備し、これら2つの橋の中間地点に新橋をかけることにより、関越道本庄児玉インターと上信越道吉井インターが結ばれることになり、渋滞の解消とともに、県北地域の経済活動の発展や埼玉県の北の玄関口として、群馬県南部地域との交流が促進するものと確信します。

以上のことから、国道462号線バイパスの整備および神流川への新橋架橋を要望します。

平成19年 5月 1日

神川町長 田村 啓